

第5期鶴見・あいねっと策定検討プロジェクト（第3回） 議事要旨

日時：令和7年6月27日（金）14：00から16：00

場所：鶴見区役所1階予防接種室

委員：芦沢委員、石井委員、板山委員、大野委員、押山委員、小林（広）委員、
小林（政）委員、齊藤委員、清水委員、勝呂委員、八森委員、日向委員、浜田委員、
福井委員、宮野委員

事務局：【区役所】福祉保健センター長、福祉保健課長、福祉保健課事業企画担当係長、
事業企画担当職員

【区社会福祉協議会】事務局長、事務局次長、事務局職員

1 開会（進行：福祉保健課長）

- ・ 本日の流れについて説明。
- ・ 写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認。
- ・ 配付資料の確認。

2 福祉保健センター長あいさつ

暑い中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

振り返りますと、コロナ禍での自粛という中で、様々な地域活動が停止したり、途絶えてしまったりということもございましたが、その一方で、地域のつながりの大切さが改めて見直され、例えばこども食堂をはじめとした新たな居場所づくりが始まったり、子どもの意見を取り入れながらどういうものができるのかについて考えていったりなど、新たな取組も始まっているところでございます。

本日は、昨年度までの議論を踏まえた、第5期計画のたたき台を用意させていただいておりますが、どのような内容にすれば手にとっていただきやすくなるか、また読み手の方に伝わりやすくなるか、そういった視点を含めてご覧いただき、フランクな意見交換をしていただければと思います。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 本日のプロジェクト及び今年度の予定（案）について（説明：事業企画担当係長）

〈第5期鶴見・あいねっと策定検討プロジェクトについて〉

第5期区計画策定体制について、大きな方向性を確認する鶴見・あいねっと推進委員会の下に、具体的な内容の検討を行うこの策定検討プロジェクトを設けさせていただいている。

プロジェクトメンバーについて、区保健活動推進委員会の会長にご参画いただいていたが、今年度からは区社会福祉協議会の会長が区保健活動推進委員会の会長も兼ねられることと

なった。事務局のトップというお立場でもあるので、計画に保健活動推進員の意見を十分反映させていくために、今年度は保健活動推進員会からは副会長にご参画いただくこととした。

〈第5期鶴見区地域福祉保健計画策定スケジュールの説明〉

区計画の策定は、市計画策定から2年遅れとなるため、昨年度から策定の検討に入っている。ゴールとしては、7年度中の策定完了だが、それに向け、昨年度は区計画の目指す姿や3本の柱などについて記載した「方向性」を確認いただいた。

今年度の具体的な予定については、資料2のとおりだが、まず①本日の策定検討プロジェクトは素案の検討という位置づけとなる。本日ご意見いただいた内容をもとに事務局で素案を作成し、②8/29の鶴見・あいねっと推進委員会でご確認いただく。そして、10月～11月ごろに素案の区民意見募集を行い、③12/12の策定検討プロジェクトでその結果を共有するとともに、計画原案についてご検討いただく。そこでいただいたご意見により計画を完成させ、④1/30の鶴見・あいねっと推進委員会でご承認いただく。最後に、⑤3/20実施の鶴見・あいねっと推進フォーラムにて第5期計画をお披露目するという流れで今年度進めていく予定である。

〈本日の議題の説明〉

本日は、事務局で第5期計画の主な原稿についての案を作成しているので、前半はその内容について説明させていただく。後半では、「この第5期あいねっとの内容をより多くの人に伝えていくには」という観点からご意見をいただきたい。いただいたご意見を踏まえて、8月の推進委員会でお示しする素案を作成していきたいと考えている。

後半の意見交換は、今座っていただいているテーブルのメンバーで行っていただくが、出たご意見については、それぞれのグループ内にいる事務局職員から全体へ共有する。その内容をお聞きいただいた後に、全体的なまとめを八森先生にさせていただく。

4 議事（進行：八森委員）

(1) 第5期計画原稿（案）について

ア 第5期計画の構成案（説明：区社協事務局次長）

- ・現時点では原稿全てではなく、素案の主な構成要素を作成していつている段階だが、より具体のイメージが持てるように、冊子形式にしてお手元にお配りしている。
- ・まず、ページ数は92ページだったものが、現時点では80ページ程度になると想定している。
- ・紙冊子やデータ開いてすぐに5期計画の内容についての記載があった方がよいと考えたため、前の方のページに配置することとした。
- ・また、地域福祉保健計画になじみがない方でも構えることなくご覧いただけるよう、

冒頭、鶴見・あいねっとのマスコットキャラクター「あいねっちゃん」を紹介し、以降のページでも、あいねっちゃんに補足説明してもらうなど、あいねっちゃんをスポークスマンとして前面に押し出すこととした。

- ・さらに、計画の前の方のページに、鶴見区を特徴づけるデータや、その他特徴的だとは思っているがそれを裏付けるデータがないもの、例えば「鶴見区民は祭り好き」といったことについてあいねっちゃんに代弁させるなど、導入部分で鶴見区に興味を持ってもらえるような内容を用意した。
- ・中身について、例えば柱3のいわゆる自助・共助のページを見てほしい。記載は極力シンプルにするとともに、コラムなどにより、区民の方々が取り組んでいけそうなことや地域活動の内容などをわかりやすく記載するようにしている。
- ・また、今後冊子のデザインを整えるにあたっては、デザイン事業者をお願いしていくことになるので、これから説明する原稿のレイアウトや色などのデザインについては、あくまでも現時点のイメージと捉えていただければと思う。

イ 第5期計画の方向性案の修正（説明：事業企画担当係長）

- ・昨年度の策定検討プロジェクトや推進委員会で確認した資料から、よりシンプルにわかりやすくという観点で内容を修正したので報告させていただく。
- ・まずは、柱3のタイトルの修正について、昨年度12月の策定検討プロジェクトや1月の推進委員会の時点では、「誰もが自分らしく健やかでいられる地域」というものであったが、これは「目指す姿」とほぼ一致してしまっていたので、明確に書き分けていく趣旨で、柱3の原稿の記載内容を総括した「心も体も健やかでいられる地域」へと修正した。
- ・また、区全体計画と地区別計画の「連動」という表現については、わかりにくいという指摘をいただいたことや、双方向の矢印でもイメージが伝わるということもあり、削除した。
- ・元々、区役所と区社会福祉協議会と地域ケアプラザにかかっていた「支援チーム」という言葉が少しわかりづらいことや、あいねっとなが地域の皆さまにスポットライトを当てた計画である中で、主体である支援チームとそれ以外というような誤解を招かないように、「支援チーム」という表現は削除することとした。
- ・さらに次のページの柱1から3の説明文について、主に文章量を削減する趣旨で重複する表現等を整理したが、これは一般的に文字量が多ければ多いほど、ぱっと見た瞬間にそれ以上読むのを止めてしまう可能性が高まると考えたためである。
- ・記載した背景が十分伝わるかということと天秤にかけた上で、必要な記載量に絞ることとした。このページを通して伝えたいことは変えていないため、以上の修正について御承知おきいただければと思う。

ウ 柱1の記載内容（説明：区社協事務局職員）

- ・多様な人や団体が参加し、つながっている地域として「つながり」をキーワードで書かせていただいている。また、「目指す姿」としては、昨年度の推進委員会や策定検討プロジェクトにて、大切にしていきたいと意見が出たキーワードを書き加えさせていただいた。
- ・自助の「自分で・家族で」では、まずは挨拶から地域で知り合いを増やしたり、自分のやりたいことや好きなことの情報を地域の掲示板、口コミ、SNSなどで探してみたりなど、身近で取り組めるようなことについて、呼びかけるような言葉でお伝えしている。
- ・共助の「なかまで・地域で」では、個人ではできないことを一緒に取り組める人がいないかなということを考えてみたり、地域行事について新しい人も参加しやすい内容や情報発信を考えてみたり、といった内容を記載させていただいている。
- ・コラムの「地域がつながるってどんなこと??」について、昨年度の策定検討プロジェクトで、「鶴見はポテンシャルが高い」という言葉をいただいた。実際に、鶴見区は地域活動の団体や企業が多く、多様なつながりがある。また、2027年度の鶴見区制100周年に向けてみんなでやりたいことをやれば、垣根を越えてつながれるのではないかという話もいただいたので、記載させていただいている。
- ・「自分たちのまちを自分たちで～子どもがつながる地域の取組～」では、子どもや子育て世代など、あらゆる世代が地域でつながっていくためには、子どもを大切に育て育てる風土づくりが大切ではないか、というお話をいただいたので、寺尾第二地区の「地域と何かできる会？」で、子どもの意見を聞いて企画を実現させている取組と、矢向・江ヶ崎のあいさつ運動を記載させていただければ考えている。
- ・区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザのそれぞれの取組については、新たな担い手をつなげる支援や、多様な主体とのネットワークづくり、活動団体を応援していくという視点で、記載させていただいている。
- ・「企業や事業所等との分野を超えたコラボレーション」では、策定検討プロジェクトのゲストの方々とコラボした取組を紹介している。まず、移動に課題がある地域への支援としてタクシーの乗り合いの取組を記載した。また、「餅は餅屋で」という言葉のとおり、外注によってそれぞれの得意なところを生かして担い手不足の課題を解消していこうという話が昨年度出たので、二十歳の集いを実現した事例を記載している。さらに、生徒が親や教員以外の大人とつながれる場所として、一般社団法人Omoshiroを中心に放課後の居場所づくりを進めた寛政中の取組を記載している。

エ 柱2の記載内容（説明：事業企画担当職員）

- ・困ったときにお互いに気づき、助けあえ、支援が届く地域として、「助け合い」をキーワードに書かせていただいている。また、柱2の目指す姿として掲げた、「相互理

解」に基づいて困っている人に気づき必要な情報を届けられること、「お互いさま」の関係ができていること、各機関が連携できていることを実現するために、「自分で・家族で」できることとして、身近な取組をいくつか掲載した。具体的には、あいさつにひとこと足してみよう、それぞれの背景を理解しよう、困っている人に声をかけてみよう、困りごとは抱え込まず助けられ上手を目指していこうといった内容になっている。

- ・「なかまで・地域で」できることとして、交流の場を作ろう、お互いを気にかけて心配な時は相談機関につなごう、団体同士で連携しよう、情報発信の方法を工夫しよう、イベントや防災訓練も誰もが参加できるよう工夫していこうといった内容を掲載している。コラム欄では、昨年度の策定検討プロジェクトのグループワークの中で委員の方にご紹介いただいた、「挨拶だけではなくプラスの一言があると関係が深まる」という素敵なエピソードを掲載させていただいた。
- ・鶴見区の特徴でもある多文化共生についてのコラムでは、代表的な取組として、鶴見みんなの会、USHIODA フェスタ、潮田西部地区での留学生との交流会について掲載している。
- ・区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザでの取組については、お互いを理解し気づき合える仕組みづくりとして、子どもから高齢者や障害のある方への支援、多文化共生について、三機関それぞれの取組を記載している。コラムでは、認知症の早期発見と、認知症になってもいきいきと暮らし続けられるための取組について記載する予定である。
- ・必要な時に支援が届く仕組みづくりとして、主にネットワークづくりや情報発信の工夫について記載している。
- ・安心して自分らしく日々を過ごせるよう権利を守る取組として、主に虐待防止や権利擁護の取組について記載している。コラムでは、障害のある方とご家族が地域でいきいきと暮らしていけるようにというテーマで、地域全体で連携し支援することを目的とした自立支援協議会の取組を掲載する予定。また、それぞれの人に合った防災への備えということで、防災訓練への障害のある方の参加と、災害時要援護者名簿について掲載する予定。さらに、社会を明るくする運動として、日々活発にご活動いただいている保護司の皆さまの取組や、生麦第二地区での講演会の中で、あいねっとについて取り上げたことについて掲載する予定となっている。
- ・さまざまな生活上の課題と支援の取組についてのコラムでは、赤ちゃんがおなかの中にいるときから誕生した後も切れ目のない子育て支援をしていくということや、児童虐待の防止、さらに子ども自身が権利の主体であるという、最近改めて示された重要な視点についても触れていこうと思っている。また、ヤングケアラー・ダブルケアについてのコラムの記載は、本日まで出席いただいている一般社団法人 Omoshiro の勝呂代表理事にご協力をいただいた。ヤングケアラーの支援の手引きが示されたこと

や、一般社団法人 Omoshiro の「親子まるっと伴走支援」の取組について記載している。

- ・生活困窮者支援の取組では、学習支援やひきこもり相談などの内容についての記載を検討している。
- ・昨年度の策定検討プロジェクトのグループワークでも少しお話しいただいた性的少数者の方への支援についても新たに記載する予定。相談窓口があるということを紹介するとともに、最近このテーマで話し合いの場を持った地域があると聞いているので、そのことについても記載したいと考えている。
- ・社会を明るくする運動で加害者支援についての記載を予定していると説明したが、犯罪の被害に遭われた方に対する相談窓口についても記載できればと考えている。
- ・柱2については、4期の内容を更新しつつ、今まであまりクローズアップされてこなかった課題についても、コラムでわかりやすく伝えることを心がけて作成した。手に取った方々が、人によって様々な課題があることと、それらの様々な課題に応じて相談窓口があることを知っていただいて、困っている方がいたら、「相談できるみたいだよ」や「行ってみたら」というお声かけを安心して行っていただけるきっかけになればという願いを込めて作成を進めていく。

オ 柱3の記載内容（説明：事業企画担当職員）

- ・4期は「健やかに暮らせる地域づくり」という表現だったが、5期では「心も体も」という具体的な表現に変えている。
- ・目指す姿について、4期では健康づくり活動が身近な地域で増えていく、参加する人が増えていくことを表現していたが、5期ではまた新たな視点での表現に変えている。一つ目が、年齢や障害等にかかわらず、その人の状態に合わせた地域の活動交流の場が身近にあるということで、年齢にかかわらず、病気があってもなくても、障害があってもなくても、誰もが自分らしく健やかでいるということを目指していくことを表現している。二つ目には、以前の策定検討プロジェクトでもご意見いただいた、「子どもの頃からの健康づくりに関心を持つ」ということを挙げている。子どもの頃からの健康習慣や健康状態は大人になってからの健康状態にもつながるので、子どもの頃から家族ぐるみで進めていくということを目指す姿に置いている。三つ目は、地域活動やボランティア活動など、居場所や役割が持てる機会があるということ を挙げている。策定検討プロジェクトでの振り返りでご意見いただいた、居場所や役割があることが、生きがいや、新たな自分自身の発見、心の安らぎにつながっていくという視点も表現に入れている。4期で土台の要素として表現していた場・機会の充実を引き続き大切な要素として考えているため、柱3の取組の中に今回は表現をしている。四つ目は、新たな視点として、健康に対する関心が比較的低い方に向けても、関心が向くように、情報発信の工夫について記載している。

- ・柱3では、心の健康についても触れていくということで、休養すること、リフレッシュすること、楽しみを見つけることについての表現をより多く入れている。例えば、自分のやりたいこと、好きなこと、趣味を持つという表現を「自分で・家族で」の最初に掲載した。また、4期では入れていなかった、つらい時は心と体のセルフケアに取り組もうという表現も加えた。自分自身の体をいたわって自分のできる範囲で自分の面倒を見るということで、例えば体調が悪いときは消化の良いものを食べたり、ゆっくりと湯船に浸かったり、そういった頑張りすぎなくてもよいというメッセージを込めている。
- ・「なかまで・地域で」のところでは、周りを気にかけていくというところの声かけや、これまでの策定検討プロジェクトでもたくさんご意見が出ていた楽しく無理のない活動という表現を入れている。また、新たな団体とのコラボレーションも考えようということで、健康づくりの視点だけで取り組むのではなく、例えば防災の取組とウォーキングイベントのコラボレーションといった、視野を広げてつながっていこうというような表現も入れている。また、コラムでは、子どもの頃からの健康づくりについて発信していきたいと考えている。
- ・居場所の紹介のコラムでは、身近に居場所がたくさんあることによって、仲間が増えて助け合いの輪が広がるということを表現した。また、居場所の紹介として、元気づくりステーションとこども食堂を入れている。
- ・区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザで取り組む目標として二つ掲載している。どちらも、三機関の取組として共通する項目も多くあったので、一番上に共通の項目として記載している。特に区役所では、「心と体の健康につながる活動を増やしていきます」という目標の中で、新しいキーワードとして、ライフコースアプローチという言葉を加えている。健康横浜21の中でも記載があるが、お腹の中にいる赤ちゃんの時から健康を考えていくことで、そこから高齢者になるまで生涯をずっと長い目で捉えた健康づくりの視点を、区役所としても意識していきたいという趣旨での記載である。また、コラムでは、心の健康づくりという観点で、ゲートキーパー研修などの啓発について掲載する予定である。ゲートキーパー研修では、落ち込んでいる方や、自殺の危険を示すサインに気付いて声をかけてみて、必要な支援につなげたり、見守ったりというようなことを研修として企画しているので、コラムに入れていく予定である。
- ・交流や生きがい、楽しみを持つことができるという取組については、区役所・区社会福祉協議会でたくさん共通項があったので、まとめて書いている。区社会福祉協議会では、ボランティアなどの活動が地域に出るきっかけになるということで、ボランティアセンターの機能の充実などを表現している状況である。

カ 評価指標の記載内容（説明：事業企画担当係長）

- ・指標について、第4期計画のものを概ね継承した6つとしている。あいねっとは、区民の皆さまの活動が中心となる計画であり、あえて細かい活動指標を設けずに、それを通して目指したい状態を表すようなものを指標としている。また、計画の読み手の方々にも指標設定に係るエッセンスのようなものを伝えたいと考え、コラムをまとめている。地域の方々には指標を意識して活動していくということよりも、指標はあくまで「みちしるべ」であり、それに向かって進んでいく過程で、話し合い・協力する機会を持つことが大事であるということをここで強調している。また、策定検討プロジェクトで事務局となっている区役所・区社会福祉協議会だけでなく、地域ケアプラザも含めて、地域の話し合いの機会設定をサポートしていくという意気込みもコラムに記載している。

キ データで見る鶴見の記載内容（説明：事業企画担当係長）

- ・データで見る鶴見「鶴見区ってどんなまち？」は、鶴見区でこれから活動していこうという方はもちろんのこと、今まで活動してきた人の中にも意外と鶴見区に関するデータは把握していないという方は多いと考え、作成した。
- ・作成にあたって、多くの方に興味を示してもらうため、半分は人口や企業数などのいわゆる基礎的なデータを記載し、もう半分では鶴見区を象徴するいくつかのデータを記載した。また、あいねっが鶴見区に関わる皆さまにとって親しみのある計画となるようにという思いから、データでは示せないが多くの方が鶴見区の特徴だと考えていることも記載することにした。例えば、鶴見区民は「とにかく祭り好き」のように、それを裏付けるようなデータをとることができていないような主観的な記載でも、あいねっちゃんを通して発信することにより、柔らかく親しみやすいトーンで記載することができているのではないかと考えている。
- ・鶴見区についてデータで紹介することを通して、鶴見区のことを理解してもらい、地域福祉保健計画が区民の皆さまにとって、より身近な計画と感じていただけるよう、導入部分のこのページで、親しみやすさを感じることができるようなトーンでまとめている。
- ・あえて空白にしている部分もあるが、この策定検討プロジェクトの中でご意見をいただきながら、アップデートをしていきたいと考えている。

ク 第4期計画の振り返り・第5期計画に向けての記載内容（説明：区社協事務局職員）

- ・ページの関係上、見開き1枚にまとめて文字数も減らしているところだが、策定検討プロジェクトのグループワークで出た話を可能な限り盛り込むよう工夫した。
- ・柱1の大切にしたいことについては、将来をつくる子どもの意見を取り入れていこう、福祉の分野を超えたつながりを大切にしていこうといった話から、子ども・学校・

若い世代や分野を超えたつながりというキーワードを抜き出した。さらにそこから、多様な人や団体が参加し、つながる地域という形で柱1を設定した、というプロセスになっている。

- ・柱2の大切にしたいことでは、様々な背景がある人がいることを理解しておく必要があるといった意見を盛り込み、最終的に「困ったときにお互いに気づき、助けあえ、支援が届く地域」という形になった。
- ・柱3では、誰もが参加したいと思える健康づくり講座や居場所があるとよい、得意なことを地域で活かせる場があるとよいという話があったので、「誰もが参加できる」、「楽しい内容・コラボ」というキーワードを抜き出しながら、「心も体も健やかでいられる地域」という形で柱3を設定した。

ケ 地区別計画の概要ページの記載内容（説明：区社協事務局職員）

- ・5期では新たに地区別計画の見方について掲載をしたいと考えている。
- ・各地区での取組について動画を作成しているので、動画が載っているページの方に二次元コードからリンクができるような形で紹介できればと考えている。
- ・コラムでは、地域活動の仲間を増やす工夫についての掲載を予定している。地区別計画を通して地域活動の仲間を増やしていくということは非常に重要だと考えている。具体的には、チラシの配架を工夫したり、協力者を増やすため期間限定の関わりをお願いしたりなどの取組を、気軽に読んでいただけるような書き方で紹介したいと考えている。

コ 地区別計画のフォーマットの修正（説明：事業企画担当係長）

- ・地区別計画のフォーマット案については、1月の鶴見・あいねっと推進委員会でご確認いただいたが、これから事業者がデザインを整えていくことを踏まえて、フォーマット案を修正した。
- ・大きく目を引くのは、全体のレイアウトだと思うが、これはあくまでもデザイン委託を行うにあたってのイメージと捉えていただければと思う。従来のフォーマットで作っていただいて事務局にご提出いただいた後に、事務局でデザインを整えて各地区の方にお返ししたときにギャップを感じてしまうと考えたため、あらかじめ事務局の方で少しデザインを入れさせていただいた。また、計画の右上部分には、地区を象徴するような写真を掲載して、見た方が地域の計画に愛着を持ってもらえるような工夫をしている。鶴見区は18地区あるので、全ての地区で象徴的な写真ということと少し難しいかもしれないが、今まで福祉保健活動を行っていないという一般の読み手の方にも地域の雰囲気伝わるかという観点から思い切って設けさせていただいた。
- ・読みやすくなるように写真を適宜配置し、また文章量の削減に向けて、フォントサイ

ズなどもなるべく統一していこうと考えている。

- ・地区別計画は地域の方々が主体となって策定していく計画でもあるので、あくまでもこのフォーマットは参考で、例えば自分たちは文字を多く入れたいとお考えの地区があれば、極力対応できるようにしていきたいと考えている。
- ・1月のフォーマット案からは左右を逆転させている。1月では、左側に振り返りと策定経過、右側に5期の内容だったが、レイアウトの都合もあり、左右を逆転させて、結果的に4期に近い配置となった。

(2) 意見交換（グループワーク）（進行：八森委員）

- ・原稿について、委員の皆さまにご検討いただいた内容を盛り込みながら、かなり5期に向けて気持ちのこもった内容になっているのではないかと思います。特に今回は、多くの人に見ていただくために編集上のいろんな工夫もされている。今後、今まであいねっとな関わってきた人のみならず、若い世代など今まで関心がなかった方々にも手に取って見てもらうため、本日は皆さまの知恵を借りながら、ブラッシュアップするような時間としていきたい。
- ・今回はA B Cの3つのグループに分かれている。内容は非常に多いが時間が限られているので、グループごとにテーマを分けさせていただいている。
- ・Aグループは、柱1と柱2の内容について、内容や見せ方、伝え方などについてお話をしていただきたい。
- ・Bグループは柱3と、データ編などその他のページについて、詳しく見ていただきたい。
- ・Cグループは、全体を通したデザインや見せ方、たとえば二次元コードの話をもう少し多くした方がいいのではないかなどについてお話をしていただきたい。
- ・各グループで事務局の職員から詳しい内容について改めてご説明いただくことになっている。皆さまで議論していただきながら、最後に事務局の職員から発表をしていただき、全体で共有していく時間にしていきたいと考えている。

(3) 意見交換（グループワーク）振り返り（進行：八森委員）

[Aグループ]

- ・「担い手」という言葉が「責任が重い」という印象を与え、参加へのハードルを上げている印象がある。代わりに、「サポーター」「支え手」「関わり手」といった表現であれば、より参加しやすい意味合いを持たせることができる。また、AIで調べたところ、「地域を支える新しい力」や「担い手から共に生きる仲間へ」といった表現が提示された。さらに、英語でも調べたところ、「Bearer（運ぶ人、かごを背負う人）」、「Undertake」が挙げられたが、特に「Bearer」は「請負人」といった意味合いになり、少し硬い印象となった。また、「新たな担い手」という表現が、若い世代に限定されるイメージがあるが、実際には元気な高齢者が活動の中心となっているケースが多いため、「様々な

担い手」や「多様な担い手」といった表現を用いることで、幅広い層の参加を促すことができる。

- ・全体的なテイストが新しくなった一方で、今までの計画には載っていた団体の紹介が載っていない。既存のボランティア団体などの紹介も重要であるため、例えばデータ編の空いているスペースにボランティア団体について記載をして、さらにボランティアポイントについても紹介することで担い手の増加につながると思う。
- ・現状、柱1では断定形（「～する」）、柱2では呼びかけ型（「～しよう」）を使用しているが、断定形だと表現がきつい印象がある。「～しよう」「Let's～」という呼びかけ型の方が、柔らかく親しみやすい印象を与えるため、語尾表現を呼びかけ型に統一する。
- ・柱2の「相談機関などにつなげて一緒に考えよう」という表現について、より簡潔に「相談機関などと一緒に考えよう」とすることで、結果的に繋がる意味合いが伝わり、スッキリする。「助けられ上手を目指そう」という表現について、助けられ上手は「目指すものではなく自然になるもの」なので、「助けられ上手になろう」といった表現の方が適切である。また、「困っている人がいたら声をかけてみよう」という表現について、「困っている人に声をかける」という行為が、上下関係を感じさせる可能性があるため、「お互いに声をかけられる関係でいよう」といった、より対等な関係性を促す表現が良い。
- ・あいねっとちゃんの性別は「なし」。
- ・あいねっとちゃんのセリフは、長すぎても分かりにくくなるので、現状のママが親しみやすい表現で良い。
- ・ボランティア団体を紹介する箇所で、あいねっとちゃんに「みんな集まれ」や「元気なシニア集まれ」といった担い手を募集する呼びかけをさせたい。さらに、あいねっとちゃんの主観として、「シニアが役に立つ」「シニアパワー100%」といった、ストレートで力強いメッセージを盛り込むことで、伝えたい層に響かせることができる。
- ・全体的に写真が映える構成や、あいねっとちゃんのキャラクターデザインはとても良い。

[Bグループ]

- ・「自分で・家族で」「なかまで・地域で」の記載内容が抽象的なところがあるので、読み手にとって、より身近に感じられるような具体的な表現に変更した方が良い。たとえば、鶴見川沿いの散歩の心地よさについて、「川辺りを歩くと気持ちがいいよ」というメッセージや、川の周りの花々を通じて「季節を感じられるよ」というメッセージをあいねっとちゃんに代弁させるのが効果的である。また、ウォーキングを通じたまちづくりとして、寺尾第二地区のせせらぎ緑道では交通事故が少なく、灯籠流しなども行われていることから、「歩くと気持ちいいよ」というメッセージを入れること

で、より自分ごととして捉えてもらえる。このように、地域の特徴ある場所を歩くことを促す内容を盛り込めると良い。

- ・「早寝早起き朝ごはん」の実践にはデジタルデトックスが重要である。大人も子どもも長時間スマホを見続けることで、起床時間や朝食の有無に影響が出ている。そこであいねっとちゃんに「スマホを見る時間を減らそう」というメッセージを代弁させ、子どもたちが朝食を摂れるように、デジタルデトックスを通じて早寝早起きに繋げるようにする。ぜひ「子どもと一緒に」という要素を冊子に盛り込んでほしい。
- ・「向こう三軒両隣」という言葉がある通り、ご近所付き合いは重要である。チラシ配布だけでは情報が伝わりにくいため、あいねっとちゃんに「顔を見て声掛けしよう」という具体的な行動を促してもらうのがよい。
- ・柱3のあいねっとちゃんの吹き出しに「ドンマイ」のようなメッセージを入れて、心を軽くさせられるような工夫ができるとよい。
- ・冊子全体の構成について、写真の多さやキャラクター設定が良い。
- ・データ編は「見ようかな」と思えるようなデザインになっている。ただし、王冠の数字が何を指すのか分かりにくいので、18区中の順位を示していることが一目でわかるようにした方がよい。また、老人クラブの設置率が「断然トップ」で「2位との差がとても開いている」ことが分かるようにした方がよい。
- ・一方で、二輪車の事故が多いことも鶴見区の特徴であり、あえてデータ編で取り上げることで安全安心の取組に繋がられる。また、ヘルメット未着用者が多い現状を踏まえ、ヘルメットをかぶったあいねっとちゃんに「みんな安全に自転車に乗ろう」「交通事故まったなし」といった注意喚起を促してもらうのもよい。
- ・生麦の蛇も蚊も祭りや生麦事件など、鶴見の奥深い歴史や記念物も冊子に取り入れることで、「鶴見っていいね」と思ってもらえるデータ編にすることができる。

[Cグループ]

- ・目次や冊子全体を通して、読者に読んでほしいページを読んでもらうための仕掛けが必要である。
- ・例えば「柱」など、馴染みのない言葉が出てくると冊子を開いてもらえない可能性がある。
- ・読者が興味のあるピンポイントな内容を「自分ごと」として捉えられるよう、ページの目印やアイコンの設置するのがよい。そのアイコンはシンプルで分かりやすい言葉（防災、子育て、高齢者、子どもなど）がよく、かつ色分けなどの工夫を凝らすのがよい。
- ・コラムのジャンルごとの一覧を冊子の冒頭に設けることで、内容の把握を容易にできる。

- ・ あいねっとちゃんが「あいねっとに関することのみ」で使われているため、目にする機会が少なく、認知度が広がっていない可能性がある。そこで、人気キャラクター「わっくん」と一緒に登場させることで、あいねっとちゃんを目にする機会を増やし、親しみやすさを向上させられる。
- ・ 表紙は冊子を手に取り、開くまでの重要な部分である。4期の赤い感じと同様に、インパクトのあるデザインがよい。また、「地域福祉保健計画」のような硬い言葉ではなく、「見ないと損」「全区民対象」「これ一冊見れば鶴見がわかる」といったキャッチーで具体的な内容を盛り込むことで、読者の手に取ってもらいやすくなる。
- ・ 冊子全体のトーンについて、現状の赤基調のデザインは良いが、濃い色が多いので、内容によってメリハリをつける工夫が必要。
- ・ 第5期計画は80ページ程度という説明があったが、適切であると思う。
- ・ 「地区別計画の見方」は、各地区別計画を見ればわかる内容なので、必須ではない。それよりも、第4期の概要版にあったような地区ごとのキャッチフレーズを記載した方がよい。
- ・ 文字の大きさ（特にページ番号）を大きくして見やすくした方がよい。
- ・ 困りごとの相談窓口（電話番号など）の一覧を掲載すべきである。その際、若い世代向けに二次元コード（相談窓口、動画リンクなど）を掲載した方がよい。

[振り返り]（八森委員）

- ・ 想像以上に各グループでの意見交換が盛り上がり、委員の皆さまが一つ壁を乗り越えたような印象を受けた。おそらく、今回の策定検討プロジェクトをきっかけに、あいねっとがより良い方向に生まれ変わると思う。
- ・ あいねっとちゃんのキャラクターが読み進めるうえでのガイドになることや、あいねっとちゃんのセリフとして鶴見区民の主観を載せているといったことが、区民受けするのではないかと感じた。
- ・ 何よりも委員の皆さまが鶴見を愛していることがひしひしと伝わってきた。あいねっとを手にとった方にも、読み進めるうちにこうした鶴見を愛する方たちの気持ちが伝わり、鶴見愛がより深まるような計画になると思う。本当に「読まなきゃ損」と表紙に書いてもよいのではないかと感じた。
- ・ 事務局には、本日出た意見をぜひ反映していただきたいと思う。
- ・ 各グループでもお話が盛り上がったと思うので、各団体に戻られたあとも、いろいろな形で情報共有していただければと思う。
- ・ 本日は本当に楽しませていただいた。ありがとうございました。

[振り返り]（福祉保健課長）

- ・皆さまからいただいたご意見については、後日事務局で確認しながら、素案作成に向けて進めていく。
- ・ご参加いただいた皆さまにおかれても、本日出た活発なご意見や八森先生のお話を各団体に持ち帰っていただき、それぞれの分野において連携をより一層進めていただければと思う。

(4) 事務連絡（説明：区社協事務局次長）

- ・次回は、第1回あいねっと推進委員会を8月29日（金）14～16時に区役所予防接種室で実施する。
- ・策定検討プロジェクトは、あくまでも推進委員会のいわゆる「検討部会」的な扱いとして設けているものである。今回ご説明した原稿については、ブラッシュアップした上で、8月29日の推進委員会で素案の案として説明させていただき、推進委員の皆さまにご確認いただくという流れで進めていく。
- ・年度初めの推進委員会となるので、改めて鶴見・あいねっとに係る年間の予定等も報告させていただく。
- ・引き続きあいねっとの策定にご協力をお願いできればと考えている。
- ・お手元にアンケートを置いているので、お手数だが記載についてご協力をお願いしたい。

5 閉会（進行：福祉保健課長）

これで本日の策定検討プロジェクトは閉会いたします。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。